



- 「佐多稲子 神近市子 二人展」  
「上野彦馬写真展を終えて」
- 県立長崎図書館所蔵の戦前資料の紹介
- 郷土資料紹介
- 図書館紹介
- 平成13年度行事予定（12月～3月）

## 佐多稲子・神近市子 二人展

現在、県立図書館では、「佐多稲子・神近市子の文学」と名付けて二人展を催しています。

おそらく若い人たちの中には二人を知らない人も多いのではないのでしょうか。

二人は20世紀初めに長崎県で生まれ、少女時代に上京。ほぼ同じ時期に、60数年間の長きにわたって、文筆（文学）活動や社会（政治）活動を行ってきました。

二人とも、自分を偽ることなく青春期を生き、自己と社会を深く見つめ、その後も常に真摯に活動を続けました。

どちらにも苦悩と過誤に満ちた時期がありましたが、人に優しく自分には厳しい生き方を貫き、美しいとさえいえる人生を全うしました。また、晩年には故郷への思いも非常に強いものがありました。

### 佐多稲子（さたいねこ）小説家

本名イネ。明治37年長崎市八百屋町生まれ。原爆投下時に長崎に居た者の不安を描いた『樹影』で野間新人賞を受ける。『くれない』『女の宿』『時にたつ』『夏の栞』『月の宴』などの著作がある。平成10年長寿を全うする。なお、諏訪神社に「樹影」の一節を刻んだ「佐多稲子文学碑」が建立されています。



### 神近市子（かみちかいちこ）評論家

政治家として人権擁護に尽力した神近は、明治21年北松浦郡佐々町生まれ。本名イチ。「青鞥」に参加し、榊櫻（さかきおう）の筆名で翻訳・小説を発表。『平戸島』『買われて行く娘』『村の反逆者』『豚に投げた真珠』『一路平安』『女性思想史』などを著し、昭和56年逝く。

## 上野彦馬写真展を終えて

県立図書館では、去る10月1日から11月18日まで、本館2～4階の階段展示棚や4階郷土資料室などにおいて、「上野彦馬写真展」を開催しました。

上野彦馬は、長崎出身の「写真の開祖」、「我が国初のプロカメラマン」と言われている人物で、我が国の写真史上最も著名な人物といっても過言ではありません。

今回は、本館が多数所蔵している上野彦馬が撮影した写真、上野写真館撮影写真のうち、約40点を選んで展示しました。

主な展示写真は次のとおりです。

#### 【上野彦馬一族・10枚】

彦馬、母伊曾、妻むら 他

#### 【外国人・12枚】

T. Bグラバー（5枚）、倉場富三郎、露国皇太子ニコライ 他

#### 【長崎風景・15枚】

中島川上野写真館付近、長崎港、諏訪神社、諫早眼鏡橋 他



上野彦馬に関する資料や写真などご覧になりたい方は、4階郷土資料室までお越しください。

## 県立長崎図書館所蔵20世紀初頭の資料の紹介 (地理・地誌・紀行関係)

県立長崎図書館の所蔵する古い資料といえば、4階の郷土課にある郷土資料を思い浮かべる方が多いかと思いますが、一般図書の方でも約4万冊にもものほる戦前の資料を所蔵しています。

今回は、そういった昔の貴重な資料を利用者の皆様にもっとご活用いただきたいと考え、その一部をご紹介します。

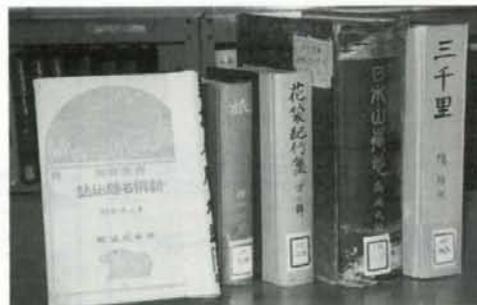
明治35年から昭和4年までの「地理・地誌・紀行」関係の資料についてご紹介しています。

書名	著者名	出版社	出版年	備考
日本名勝地誌	野崎左文	博文館	明治35年	全12巻。全国各地の名所・旧跡を紹介
ふざんぼう日本地図	富山房	富山房	明治35年	明治時代の日本地図
实用帝国地名辞典	大西林五郎	吉川半七	明治36年	明治30年代の全国の地名と統計資料
市町村一覧	中村芳松	鐘美堂本店	明治37年	明治時代の全国市町村の一覧
大日本地誌	山崎直方	博文館	明治39年	全10巻。
日本山嶽志	高頭式	博文館	明治39年	山嶽噴火年表つき
日本史蹟	熊田宗次郎	昭文堂	明治43年	全5巻。全国各地の旧跡を紹介
三千里	河東碧梧桐	金尾文淵堂	明治43年	東京～北海道まで旅しての紀行文
東海道名所図会 上下	葵文会	吉川弘文堂	明治43年	東海道道中の名所・旧跡を紹介
鉄道院線沿道遊覧地案内	鉄道院	鉄道院	明治43年	鉄道を利用した旅のガイドブック
新撰名勝地誌	田山花袋	博文館	明治43年	日本全国の名所・旧跡を紹介
帝国地名辞典	太田為三郎	三省堂	大正元年	上下2巻。
紀行文編	幸田露伴	博文館	大正3年	日本全国を旅しての紀行文
日本の山水	河東碧梧桐	紫鳳閣	大正4年	日本各地の名山を紹介
裏日本	久米邦武	公民同盟出版部	大正4年	山陰地方についてのガイドブック
鉄道旅行案内	鉄道省	鉄道省	大正4年	大正時代の鉄道時刻表
最新日本地図	富山房	富山房	大正5年	大正時代初期の日本地図
市町村名辞典	杉野耕三郎	博文館	大正5年	大正時代初期の全国市町村一覧
掌中山水	幸田露伴	大鐘閣	大正8年	全3巻。日本各地を旅しての紀行文
水郷めぐり	田山花袋	博文館	大正9年	全国各地の川・湖など水辺の風景
旅	田山花袋	博文館	大正9年	日本全国を旅しての紀行文
花袋紀行集	田山花袋	博文館	大正12年	日本全国を旅しての紀行文
海南小記	柳田国男	大岡山書店	大正14年	南九州・沖縄を旅しての紀行文
日本三千年史蹟	水谷次郎	日本書院	昭和3年	日本全国の旧跡を紹介
日本八景	鉄道省	大阪毎日新聞社	昭和3年	長崎県では雲仙岳を紹介
日本案内記	鉄道省	大阪毎日新聞社	昭和4年	全11巻。北海道から沖縄までを紹介
日本の自然と人文	西田卯八	古今書院	昭和4年	昭和初期の日本の自然と人間との関わり

### ◎鉄道旅行案内 (大正4年)

各駅の汽車の発着時間・運賃を掲載した時刻表としてだけではなく、各地の名所・旧跡や特産物などを紹介した旅のガイドブック。

当時の長崎本線は、鳥栖から早岐駅を經由して、大村湾に沿って走り、長崎まで至る経路のことを指した。本書では「川棚より大草に至る間、汽車は屈曲する海岸に沿って走り、港又港、山又山、車窓の展望を飽くことを知らず、中に大草駅付近最勝に富んでいる」と紹介されている。



### ◎最新日本地図 (大正5年)

大正時代初期の日本地図。北の千島列島・樺太南部から、南の台湾までと、朝鮮半島の地図が掲載されている。巻末には、各種統計資料が掲載されており、全国の平均気温、道府県別の人口、各地の特産物などの資料が載っている。資料より、当時の長崎県には、長崎市 (160,450人)、佐世保市 (89,936人) の2市しかなく、その次に人口が多い場所が、西有家村 (12,308人) や、富江村 (11,977人) であったことなどがわかる (大きな港のあるところに人口が集中していた)。ちなみに、大正2年の長崎市の人口は、全国の市の中で横浜市に次いで第7位、九州では第1位である。

## 湊内山水の景 唐画の山水の如くにして 此舟画中の一景なるべし

— 長崎旅日記・長崎紀行(14) —

享和二年五月十日、菱屋平七は長崎で知り合った人々と舟遊びを楽しみました。その一行は柳谷新兵衛、中山太四郎、海老屋善助、田中順藏、田島屋宇兵衛と、芸子の国吉、市弥、舟子3人の他、料理人も加わっています。中山太四郎は柳谷と同じ唐通事、このとき稽古通事でした。海老屋善助などは長崎の有力商人でしょう。

屋形舟は梅ヶ崎から西の方へ漕出、大浦の大村領番所や、入江に多くの小舟が繋る情景を目にしながらかつ対岸の稲佐へ渡りました。小舟には多くの遊び女。上方では「そうか(総嫁)」といい、長崎では「ひゃあはち(平八)」と呼ばれる下級娼妓が乗って客を引いていました。蛇足ながら「総嫁」は多くの男に嫁ぐの意、「平八」は丸山遊女のうち「並」の揚げ代が八百文だったことから、並の遊女を指した言葉でしたが、転じて下級娼妓を意味するようになったようです。

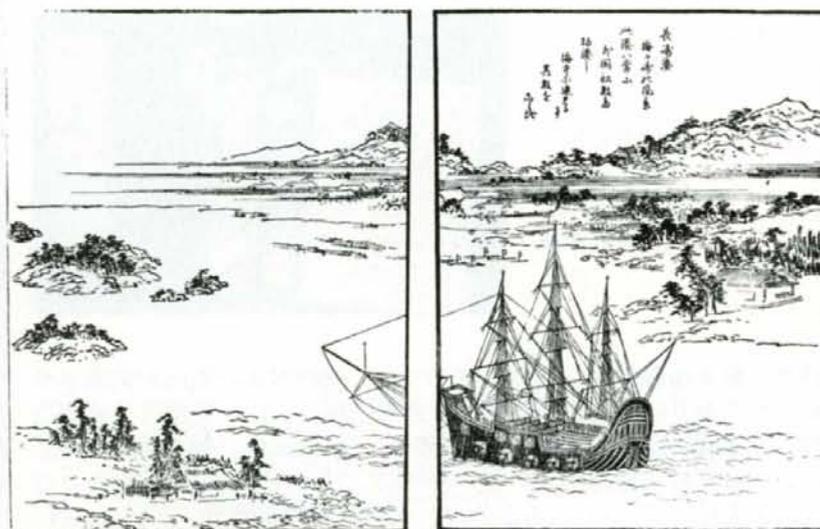
さて、対岸稲佐の恵美須社近くの高台に波止場役諸熊五兵衛の別邸があり、舟より上がって港を見ると「一目に見晴せる風景言語に絶せり」ということでありました。

さらに港口に至れば、北に西泊番所、南に戸町番所があって、西泊の魚鱗、戸町の鶴翼の陣屋を黒田・鍋島両侯が隔年に勤番しており、今年黒田侯の当番です。沖から見ると厳めしい陣屋の様子がかげえ、その前には三四百石積の舟が20艘ずつ並んでいます。

西泊番所の西の神崎にある神崎大明神の社には、唐人が書いて寄付した「舟神社」の額がありました。ここは港口の一番狭いところで、近くには高鉾島・鼠島等があり、外海には香焼島・硫黄島(俊寛僧都が流された所との伝説)が見え、深堀・野母崎からは五島・平戸・天草へと続いています。

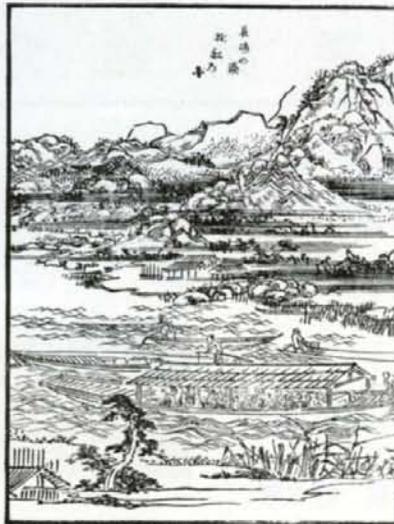
大浦から港口まで所々に石火矢台(砲台)を設けてあり

「異国船非常の変に備へたり」と菱屋平七は書いていますが、英船フェートン号の狼藉事件が起こったのは6年後の文化五(1808)年、所々の石火矢台は全く役に立たず、西泊・戸町の両番所に凡そ千人が詰めているはずの佐賀藩兵は、実際には二百人程しかおらずにフェートン号を取り逃がしてしまいました。さて、長崎港内での舟遊びを平七は次のように感慨深く記しています。



長崎湊梅ヶ崎の風景(『筑紫紀行』)

内海の様は、径一里四面許の海



遊船の図（「筑紫紀行」）

面をめぐりて、山々の姿とは同じからずして、面白く唐めきて立るを、船中より眺め玩べば、身は異国に渡れるかと思ふ許なり

そして標題にあるように、自分たちが乗っている屋形舟を唐画の中に思い描いたわけです。ところで、船中での献立は、なかなか豪華なものでした。

組重			
かまぼこ	猪口三杯酢	にしめ	
巻 えび	しそぼ	三 ひさ作り身	あげかまぼこ 焼豆腐 四 白まんちう
玉子	山もい	きうり	干だら ふき
いか	川たけ		竹の子 はす
味噌胡椒の粉			
吸物 鯛ひれ	同 どちやう	つぶ椎茸	
		さゝがき牛房	みやうが
		竹の子	ねぎ
酢しやうゆ	まくら貝	ぶた 椎茸	
皿引 鮪	大坪 松たけ	茶碗 なすび	一もじ
	おろし大こん	水せんじ	ふき
	やきかます		
吸物 黒豆			
	なら漬		

「ひさ作り身」はイシダイの刺身(イシダイは長崎・五島地方の方言で「ヒサ」といいます)

「さゝがき牛房」とはごぼうを笹の葉のように薄く細く削ったもの、「水せんじ」は饅頭製造の際の煮汁を味付けに使ったものでしょう。

画中的一景となった舟での食事は、さぞ乙なものだったことと思われます。

場面は変わって久しぶりに平松儀右衛門の旅日記から、上筑後町の迎陽亭での会食についてご紹介しましょう。迎陽亭は長崎を代表する料亭で、東中町にあった唐津藩蔵屋敷を訪ねた際、そこで長崎聞役

らと会席料理を楽しむことが決まりました。

所々に料理茶やありて中ニハ異国風にてキヨクロクニ懸り異国の料理しておる所もあれバ御茶人故会席の料理にすべし、是ハ迎陽亭と随分見晴しもよし、また雅なる料理也、一人前金貳朱宛なれども格別下直とも申がたし

「キヨクロク」とは椅子のことで、

当時長崎の料亭にはテーブルと椅子を用意して異国風の料理を出すところもありましたが、儀右衛門たちは茶人ですので会席となったわけです。迎陽亭からは長崎の街・湊が一望され、長崎奉行立山役所にも近いところから、奉行所の御用を勤めることも多かったようです。現在も迎陽亭の庭には遠山左衛門尉景晋の名を刻んだ石灯籠が残っています。料理代が一人前金二朱とありますが、幕末の一両の八分の一ですから現在のお金で一万円くらいでしょうか。ただ物価の基準が違いますから、高い、安いは判断できません。

迎陽亭の様子は次号に回すとして、儀右衛門たちが食べた会席料理の献立を見てみましょう。

料理向一通り	飯櫃	銚子之出し	入常之通
献立明し			
向 作り身	汁	茄子輪切	碗
	飯	胡麻	
吸物	八寸	焼ものなし	せん茶斗
銚子は一人前	小さき一徳利	宛之よし	
口取の菓子	カンコロ製之由	和やかにして結構	夫切
		にて薄茶もなし	

何やら儀右衛門、ご不満の様子、「夫切にて薄茶もなし」とは。高級料亭の会席は、値段の割りには大したことなかったのでしょうか。「一人前金二朱ツツ 七人にて三步二朱直払」し、亭主の見送りを受けて迎陽亭を後にしました。

(郷土課 本馬)

# 図書館紹介

## ■諫早市立図書館

2001年7月1日、その名も本諫早駅前に諫早市立諫早図書館としてオープンしました。開館以来9月までの入館者数は約18万人、貸し出し冊数18万8千と、着実に読書人口が増えてきています。

図書館から何を発信し得るのか、そんなテーマを抱きつつスタートしたのですが、多くの方々のご協力をいただき、図書館が市民の皆様へ根づいてきているのはうれしいかぎりです。

開館以来、児童文学講演会、写真展、絵本原画展等の催し、伊東静雄、野呂邦暢の直筆原稿、書簡、初版本の展示、また担当ごとに図書館員の創意をこらした企画、展示を行ってきました。

10月4日から健康福祉センター、児童福祉室の協力を得て、ブックスタート事業も始まりましたが、その反響の大きさにいささかとまどいを覚えているところです。



12月からは、市川森一名誉館長プロデュースによる「シナリオ講座」も予定されており、シナリオルームが活用され、この図書館から脚本家が育ってくれることを期待しています。

さて、本館の特色は？と聞かれて、ちょっと答えに窮することがあるのですが、ひとつ言えることは、『育てる』ことに重きをおいている点ではないかと思います。児童書に力を入れ、「子どもの文化の研究コーナー」を設けているところに、それを見ることができます。

現在、蔵書数約20万冊、これを生きた資料としてより多くの方々に利用していただくことが何よりも大切なことです。

また、西諫早分館が、今年度から西諫早図書館と名称が変わり、どう棲み分けていくかは、今後の研究課題です。

これからも多くの課題を一つひとつクリアしながら、常に成長し続ける図書館でありたいと、館員一同願っています。



## 長崎県図書館活動推進大会 優良読書グループ・地域文庫等表彰

### ◎ 優良読書グループ

まゆみの会(諫早市) 代表 田原真由美

### ◎ 優良地域文庫

夢いっぱい絵本の会(佐世保市) 代表 中馬 末子

### ◎ 社団法人 読書推進運動協議会表彰(優良読書グループ)

あしたば読書会(大村市) 代表 松尾喜和子

平成15年度全国高等学校総合体育大会



## 平成13年度行事案内 (12月～3月)

12月 子ども大会 (22日 本館)

2月 県立長崎図書館協議会 (未定 長崎市)

県読書グループ連絡協議会理事会 (15日 未定)

※12月28日から1月5日までは年末・年始のため休館いたします。

編集・発行 長崎県立長崎図書館 長崎市立山1丁目1番51号/印刷 (株)昭和堂 長崎市栄町6-23昭和堂ビル  
I S S N 1344-5235 ホームページアドレス www.lib.pref.nagasaki.jp

**R100** 再生紙を使用しております